

こだま

12号

日本基督教団 若松教会

〒808-0053

北九州市若松区修多羅1-8-1

TEL:093-771-4329

驚くべき出来事

茶屋明郎牧師

「本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。」

(ルカによる福音書24章34節)

この世には、様々な驚くべき出来事があり、感動を与え、ワクワクさせ、心を熱く燃えさせてくれます。こんな出来事の出会いがある人生は、どんなに素晴らしく、幸いなことであるか。復活も、驚くべき出来事の一つです。

復活という言葉は、いろんな場合に使われています。一つは、復帰する、つまり、病気などで休止していた活動や仕事を、再び再開すること。失敗したり、挫折したり、倒れていた状態から立ち上がって、再び活躍できるようになること。どん底から這い上がって、華々しく活動できるようになること。絶望のどん底から、希望をもって、見違えるように生き返ることが出来たことなどの場合です。

聖書が伝える復活は、死人からの復活のことであり、それも、これまででは、一回限りのイエスの復活のこと。つまり、イエスが、十字架につけられて、死んで、墓に葬られて、三日目に蘇られて、新しい命、すなわち、永遠なる霊の身体なる命に生きていることです。この復活を信ずる者にとっては、どんなに感動をもたらし、ワクワクした思いをもたらし、心を熱くさせ、燃え立たせることか。

しかし、反対に、この出来事が、どんなにたわごとであり、ばかげたことであり、一笑にふされることとして、受け止められることか。復活は、伝えている弟子たちの錯覚であり、幻覚であり、創作であり、事実ではないと突き放し、無関心になる人も、数多くいる。

弟子たちも、確かに、最初は、聞いても、たわごととして、信ずることが出来なかったのは、事実です。しかし、その後、実際に復活したイエスに出会う経験によって、彼らは、信じられるようになり、それどころか、命を懸けて、「十字架につけられたイエスは、死に勝利して、神によって新しい命に復活させられて、今も生きている。復活したイエスが、自分のところにも現れた」というメッセージを宣教する者に、変えられていきます。

弟子たちは、人々から馬鹿にされ、反撥を受け、攻撃され、命の危機に、さらされていきます。しかし、復活したイエスに出会い、心臓が止まるほどの驚くべき出来事として受け止めて、感激し、心を燃やすことが出来た弟子たちは、新生して、以前の臆病な、弱弱しい弟子たちではなくなっていて、まさに不安や恐れから解放されて、雄々しくなり、勇敢になり、確信をもって、希望を抱いて、心を熱くして、命の危機を顧みず、殉教の覚悟をもって、宣教していきます。



イエスの復活

この弟子たちの新生が、「イエスの復活は実際に起きた出来事である」という最大の力強い証になっているし、復活を、ばかげたこととして、無関心で、一笑に付していい事柄なのか、そのように受け止めることは、この世において、もっとも大切なことと関わらず、最も重要な価値である真理に生きずに一生を終えることにならないか、真の希望と新しく造り変えられるという恵みが得られなくなる、そうあってはならないのではないかと、訴えている。

ある時、二人の弟子たちが、エルサレムからエマオの町への失意の旅をしていました。失意の理由は、イスラエルを解放してくださる方として期待したイエスが、十字架がつけられて死んだ出来事に衝撃を受け、期待が外れ、心を暗くし、不安や恐れを抱いていたからでした。エルサレムを旅立つ前に、仲間の婦人たちから、「イエスは復活して、生きておられる」という知らせは聞いてはいましたが、心を動かすことなく、たわごとのようにしか、受け止められていませんでした。

その旅に、霊の身体に復活したイエスが近づき、共に旅をしますが、しばらくの間、その人がイエスであると気づかずに、心の晴れない旅が続いていました。

一緒に泊まった宿で、食事をし、イエスがパンを取り、祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった時、イエスであると気づき、弟子たちは道で話をし、聖書を解き明かしていた時に、心が燃えていたことを思い出して、その人がイエスである、復活したイエスであることを信ずることができ、喜び勇んで、弟子たちのいるエルサレムに戻り、シモンなどの他の弟子たちにも現れたことを聞いて、イエスの復活が、実際に起きたことを確認し合い、大きな喜びと希望にみたされ、感激と心を燃やし、彼ら自身も復活して、新しい人に創造されていきます。



エマオの晩餐、カラヴァッジョ画

驚くべき出来事である復活が伝えるメッセージは、その一つは希望です。驚くべき大いなる力が発揮されている復活の出来事は、復帰する力と知恵をもたらしてくれるということです。どんな状況に置かれても、コロナ禍や戦禍、そして自然破壊などによる不安や恐れから解放されて、困難や命の危機にめげずに、「何とかなる、大丈夫だ、安心して生きていける」という希望を抱くことが出来ると言うことです。

もう一つは、新しい創造です。愛に生きる人間に造り替えられることです。国や民族、思想や宗教などのさまざまな違いを乗り越えて、対立や戦争を乗り越えて、お互いを一人の同じ人間として認め合い、尊重し合い、共に生き、暴力ではなく、話し合いでもって平和を作り出すことの大切に気づく人間に造り替えられていくということです。

これらのメッセージの根拠は、それは、復活という驚くべき出来事は、真にこの世を支配しているのは、偶然や運命でもなく、邪悪な力でもなく、ましてや国の権力者ではない。そうではなくて、死んだイエスを復活させられた活ける神、創造主なる神、無から有を生じさせ、不可能を可能にできる、大いなる力を持っておられる、愛と慈しみに富み、すべてを憐れみ、赦し、私たちが平和の中で安心して生きて生けるように日々働いておられる生ける神が真の支配者であることを明らかにしているからです。

この復活信仰に生きるためには、復活したイエスに出会うことであり、今も生きておられるイエスに出会いうためには、二人の弟子たちが教えているように、聖書を読み、祈り、礼拝を守ることであり、その場所にいることであり、そこに居続けて、待ち望むことです。

コロナのための“自粛”で、日常当たり前に行っていたことができない日々が続いています。そのうちスリランカに行けると思いつつ暮らしていましたが、新型コロナウイルスはしぶとく居座り続けます。毎年訪れていたのにもう3年も行けていません。

友人たちから紅茶の問い合わせが時々。有機農法製と新鮮さが売りですから、長く在庫を抱えたことはありません。バイオフィーズの紅茶を飲みだしたら、他の紅茶はもう飲めない、という方もおられます。スリランカ紅茶ファンの困りごととも見過ごしにはできないので、注文しました。



茶摘み、バイオフィーズ社

すぐにインボイス(送り状兼請求書)が送られてきて、2週間うちに紅茶の現物は届きました。信用状(支払い保証書)の発行も前払いも要求されていませんでした。早束手紙やメールで友人たちに知らせると3週間で完売。みなさん待っていてくださったのでした。

これまでのインボイスには商品代金(紅茶代)だけが記載されていましたが、日本から注文すると、当たり前のことですが航空運賃も計上されています。バイオフィーズの担当者からは、わざわざキャンディまで買いに来なくても航空便で送りますよ、とこれまで何度も言われてきました。頑張っただけ抱えて帰って来ていたのは支援金を少しでも多くしたかったからです。

私の注文量は、会社にとってはあまりにも少ないので、通常は商品と引き換えの現金払いです。今回は送金のため銀行へ。外国送金依頼書兼告知書に必要事項を記入して、インボイス金額を決済しました。銀行で支払ったのはインボイス請求金額に1万1千円上乗せした金額です。内訳は送金手数料と支払銀行手数料なのです。これは紅茶農園労働者の半月分の労働に相当する額でした。

『ブルシット・ジョブ:クソどうでもいい仕事の論理』にとっても興味深いところがありました。ブルシットとは“デタラメ”とか“タワゴト”という意味で、下品ですから人前で用いるのは慎むように、と言われている言葉です。現代はあまりにもデタラメ仕事が多いという著者の怒りに翻訳者たちが共感してブル・シットジョブは“クソどうでもいい仕事”という訳語になったのでしょう。

私たちはお金がなければ生活できません。お金のためにやらされるどうでもいい仕事、とても大事なのに十分なお金を受け取れない仕事、自分にプライドを持ってない仕事…それで成り立っている変な社会。何がおかしいのか気付かせてくれるのがこの本です。

その「クソどうでもいい仕事」に主な型は5種類あるそうです。

○取り巻き:だれかを偉そうにみせたり、偉そうな気分を味わわせたりするためだけに存在している仕事

○脅し屋:雇用主のために他人を脅したり欺いたりする要素をもち、そのことに意味が感じられない仕事

○尻ぬぐい人:組織の中で存在してはならない欠陥を取り繕うためだけに存在している仕事

○書類穴埋め人:組織が実際にはやっていないことを、やっていると主張するために存在している仕事

○タスクマスター:他人に仕事を割り当てるためだけに存在し、ブルシット・ジョブをつくりだす仕事

どれも、あるあると納得します。銀行で1万1千円支払った時を思い出しました。外国送金依頼書に、銀行の担当者が当日の為替レートを書き込みインボイス請求額と手数料の円相当額を銀行通帳から引き出すという手続きをするのに1時間もかからなかったのです。あれは「書類穴埋め」という仕事だったのでした。あの銀行は実際には外国送金という業務はやらない/やれない銀行です。紅茶・運賃込み値段の送金を行うのはあの銀行のコレス先(海外送金を行う際に中継する銀行)なのです。

社会には様々の仕事がありますが、大別すればモノ生産とサービス生産の仕事に分けることができると思います。「クソどうでもいい仕事」の5類型はサービスに属しています。モノを作る(茶葉を摘む)仕事の賃金は低く、サービスを生み出す(デスクワークなど)の仕事には高い賃金が支払われます。本当のところ、仕事によって私たちが受け取る賃金が違うことは、公平なのでしょうか。

夜明け、9時、12時、3時、5時に出かけて行ってどの労働者たちにも同じ賃金を約束・その通り支払ったぶどう園の主人の話を思い出します。人は食べなければ生きていかれません。そのためには金が必要です。そして人はパンのみにて生きるにあらず。住むところ・教育・福祉・文化・環境等々快適な生活を誰もがしたいし、誰にも快適な生活が保障されるべきではないのでしょうか。

朝から晩まで1日中働こうと、1時間しか働けなかりと、デスクワークだろうと現場の労働であらうと、人は生きなければなりません。「私はこの最後のものにもあなたと同じように払ってやりたいのだ」というぶどう園の主人の応え。このぶどう園の主人の話は、イエスが天国とはこのようなところだ、と言って話された譬え話です。ベーシック・インカムのことだんだん現実の議論になってきましたが、その出発点はここだったと思いました。

*紅茶農園労働者の日当は約700円計算。農園労働者の賃金ベースは日当で支払いは月払い。だから賃金としては、日当x28日として論じます。例えば、700円x28日=19,600の円のように。しかし実質日当払いなので、“月給”は実働日数であり、毎月一定ではありません。日本の労働者の平均賃金307,700円(厚生労働省統計)

**デヴィット・グレーバー著『ブルシット・ジョブ:クソどうでもいい仕事の論理』酒井隆史他訳 岩波書店 2020年

挑む

岩本句子

市政だよりを何気なく見ていると、食育推進員講座参加者募集の見出しを発見。「なにになにと、ゆっくり、じっくり読んでみると、10月~3月木曜日午前中とある。仕事は休みの日、午前中だとすると、何の支障もない。即応募した。

忘れた頃に、講座の出席の案内が届いた。さて、開講式当日に行ってみると、たった3人の受講生。コロナの時期、応募する人がいなかったのだろうか。

私も物好きである。ともかく、講座がスタートした。受講すると、中々良い。高齢者の健康づくり、生活習慣病、食事摂取のポイント、減塩と、まさに我家にとっては、必要な知識ではないか。食品分析表を用いてのカロリー計算もあり、四苦八苦。課題の調理実習もあり、盛りだくさん。少々負担になりかけた頃、閉校式を迎えた。

考えてみると、我家の調味料が一変した。減塩しょう油にみそ、減糖ジャムと、減塩と示されている食品が目に行くのである。わかっている様で、わかっていた事に気付かされた今回の講座。これからの調理に生かしていこうと思う。

この年になっても、イソイソと出かけていく、私の挑戦であった。



減塩料理、mizkanより

些細なきっかけで、俳句の会を作り、東京、神奈川、小倉、若松と離れて暮らしている者5人と、お一人の選者を加えて、テレワーク方式で句会をしている。私を除いて皆、文系の方なので、私一人が味気のない無機化学用品をいじってきた、およそ文芸などとは縁のない人間が混じっている。それが俳句を詠もうと言うのだから、初手から間違っているのだが、私自身は結構楽しんでいる。最近のおかしな句を2、3披露して、笑っていただこうと思う。

こまねいて COP26 新芽の紅葉

COP26会議で、地球の温暖化を止めないと人間が暮らせなくなる問題を議論しているが、手をこまねいているだけで、真に迫っていない。大気は一つであることを、棚上げにしている。地球が熱帯の気候になれば、森の樹木は、新芽が紅葉して、秋の紅葉など無くなると詠んだ。選者からは、紅葉と言う季語は、新芽には用いないので、句として駄目と、笑い飛ばされた。

啓蟄や「パパはキエフに 残るんだ」

生き物の活動が活発になる啓蟄の季を迎えたのに、活発になったのは、ロシアのウクライナ侵攻。報道のカメラが、避難のため国外へ逃れようとしている母子を捉え、10歳前後の男の子にマイクを向けたとき、この言葉を口にした。父親のことを自慢げに言い終えたら、泣き出しそうな表情に変わった。選者からは、俳句は何を言ってもいいのだが、ここまで言われたら、何も言うことは無いと。

気づけば 一人春立ちて 一人立つ

この一年の私を詠んだ。妻を介護施設に託するようになって、半世紀の間、四つ足で歩いて来たのが、急に二本足で歩かなければならなくなった。何か不具合があっても、妻のせいだと身勝手が言える相手はいないので、空疎で張りが無く、とりつく島がない。春が来て、こうなったら四つ足分生きてやろうと思い始めた。最近、すっかり忙しくしている。選者からは、「春立ちぬ 気づけば一人 一人立つ」と、ひとりであることを際立ててはと、指導された。

こんな無機質な句しかできないが、自分表現の面白さがある。それに、お隣さんの気心は、未だに知れていないのだが、こうして遠く離れた句の友とは、とても親しく心通わせている。説明を飛ばして言っても許してもらえるなら、ゼレンスキー大統領の思いも、私に伝わっている。

教会

西南女学院高校3年 永田花奈子

私は、この教会に来ることができて良かったと、いつも思っています。皆さんが、よくしていただいているおかげで、日曜日の朝も、苦痛ではなくなっています。教会の皆様、感謝を伝えたいです。あまり口に出せないのが、この場をお借りしました。また、導いてくださった神様にも、感謝の気持ちでいっぱいです。

教会の皆さんの声かけや、「来てくれてありがとう」などの言葉に、救われています。言われてうれしい言葉を、わたしももっと言っていきたい。そして、教会のことを、もっと知っていけたらいいなと思いました。

教会や聖書、宣教者の人を通して、色んなことを学べる機会があり、日々成長できたなと感じることがあります。

最近、聖書の話を読んで、すごい話だなと思うこともありました。また、イエス・キリストのギャグにハマって、「イエス様ってこんな人かも」とか、聖書を読んで、「こんな人なんか!？」と、想像したりすることが楽しいです。

私に色んな考え方を与えてくれる神様に驚きです。これからも、色んな考え方や聖書、またその他のことを知っていくことができればいいなと思っています。

「鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される。」

(箴言 27章17節)

皆さん、こんにちは。今回、文書でメッセージを書けることを、感謝します。

初めての方に、簡単に自己紹介すると、私は河野泰重です。9ヶ月前の2021年7月4日に、洗礼を受けました。今回は、KGK(キリスト者学生会)で受け取った恵みについて、証ししようと思います。

皆さんは、KGKというものをご存知でしょうか？KGKとは、キリスト者学生会の略です。簡単に言うと、大学生のクリスチャンの集まりです。これは全国規模のもので、北海道から沖縄まで、全国にあります。私は、九州地区に入っています。「なぜ、下関の大学が、九州地区に入ってるの？」とは、聞かないください(笑)。

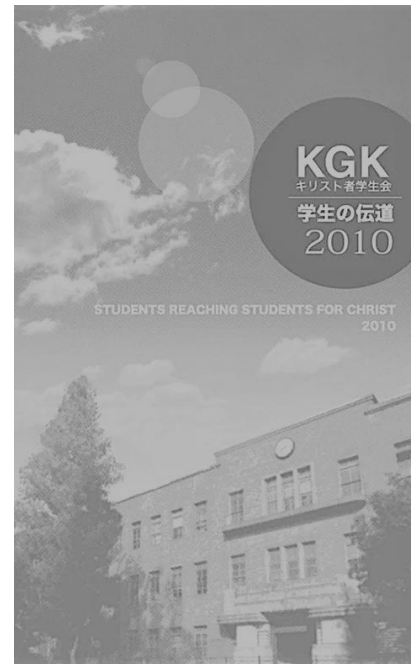
入るきっかけは、先々代の部長にKGKの話をして、「めっちゃ面白いところだな」と、思ったところ。そして、師匠に話したところ、入ることを断られました。これは後日談なんですけど、「KGKに入って欲しい」とは祈ってたのですが、軽々しく来て欲しくなかったそうです。そして、KGKに入る前に、聖書研究を2人でした。「ガチで難しかったら断ろう」と思ってましたが、難しいどころか、めっちゃ面白かったの、そのまま入ることにしました。

そして、時は過ぎ、2021年3月、初めて九州地区の集まりに行きました。私は、緊張して行ったら、緊張どころか、同じグループの人がめっちゃ笑ってくださり、緊張がほぐれました。そして、「九州地区、めっちゃ面白いな、また来ようかな！」と思いました。

それからというもの、今までずっと参加をして、洗礼を受けた後、会員になりました。それだけKGKに、コミットしています！

そして、KGKに来て、自分が受け取った恵みは、友がいることの安心感です。私は、まだ洗礼を受け、間もないので、本当に分からないことだらけです。でも、クリスチャンの仲間がいることで、分からなかったことは聞けばいいし、本当に安心感があります。そして、友がいることで、「僕も頑張ろう」ってなります。本当に、KGKの友の存在は大きいです。また、KGKにいと、自分の信仰も磨かれて行きます。周りには、すごいクリスチャンばかりなので、みんなに励まされながら、そして励まして、「今の自分があるんだな」と、感じています。

今回の聖書箇所を、もう一度朗読します。「鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される」。皆さんは、友達を大切にしていますか？友達に感謝していますか？友達は、自分のことを見ていて、大切にしてくれる、そんな存在です。そして、何よりも、一番自分を成長させてくれる存在です。「友達が頑張るから、頑張ろう」と思える人は、たくさんいると思います。その人のことを、大切にしたいです。そして、何気なく、「いつもありがとう」と、声をかけてみてはいかがでしょうか？そして、何よりも、その友達に会わせてくれたのは、神様です。神様にも、感謝して欲しいと思います。



KGK 学生の伝道

はるか昔、寒い冬のさ中、中学卒業式の練習が、講堂であった。音楽の先生のオルガンに合わせて、私達卒業生が、二列に並んで、講堂後方中央入口から歩み出す。前に進んで、各々左右のイスの列に分かれて行く。簡単そうなこの行進が、こわい先生の前では、果てしなく困難となる。少しでも足がちがったり、肩が揃わずに揺れたりすると、オルガンがバン！となり、とまる。そして、「やり直し」と、ひとこと。

どなったり叫んだりするわけではないが、こわい。私達は、わらわらと入口にもどり、また初めから、「今度はまちがえませんように」と、願いながら行進する。これを何度もくり返し、やっと卒業式当日をむかえた。

当日、私達卒業生は、衿元にフリージアの花をさしていたので、行進が終わり、式が始まる頃には、講堂は、フリージアの香りでいっぱいだった。春の訪ずれと、旅立ちの期待と不安、きびしい練習のかいがあって、うまくいった行進の充実感など、諸々の思いが、花の香と共に、講堂のおごそかな雰囲気をやわらげていた。

練習風景でもわかるように、音楽の先生は、とても厳しい人で、中学の三年間、音を楽しむとは程遠い授業だったなあとと思う。

三月の卒業式シーズンになると、あの行進の練習や、日頃の音楽の授業のことなどが思い出され、自分が良い生徒であったかという点は棚に上げて、音楽苦手意識が芽生えたのは、あの日々だったかもしれないと、当時をふり返って、勝手に解釈中である。

礼拝

上野知佳子

礼拝に集える日が、今、楽しみになって来ています。

日々の生活の中で、うれしい事、楽しい事ばかりではなく、悲しい出来事や辛さに出会う事もあります。そんな中、祈りが心をいやしてくれ、守られている感があります。

牧師の説教は無論のこと、皆さんの心が、ひとつなを感じ、ありのままの自分でいられます。感謝です。

教会学校部「みんな一書」に投稿した文書

二階堂裕

2021年度の地区教会学校部では、コロナ禍により、「みんな一緒に寝」が、開催できなくなりました。そこで、「みんな一書」と言う文集を作成して、各教会に配布する事としました。私と教会学校の関わりについて、思い出しながら纏めましたので、「こだま12号」に投稿します。若松教会の教会学校は、筒井さんの子どもさん「隆徳君」「万耶子さん」が大きくなって、休止状況になっています。いつの日か、再開されることを願っています。

私は、宮城県仙台市で生まれ育って、たまたま就職で、北九州市若松区にあった火力発電所に勤務する事になり、その後数か所異動して、最終的に若松区に永住(?)することになりました。

教会学校との出会いは、家の近くに仙台五橋教会があり、4歳上の兄について教会学校に行く事がきっかけでした。

仙台での教会学校生活で楽しかったのは、クリスマスに米軍駐屯地にキャロリングで訪問すると、大きな袋に入ったお菓子を貰えることでした(お菓子につられて教会学校を継続出来ました)。

初めて若松に来て1ヶ月程で、若松教会を見つけて通うようになりました。信徒さんの中に同じ発電所に勤務する方の奥さんがおられ、「会社の社宅で教会学校を行っているので手伝って下さい」と、依頼されました。

教会学校は、生徒として通ってはいましたが、教師は初めての経験でしたので、当時の尾瀬牧師を初め、色々な方に指導して頂き、社宅の子ども達と一緒に、土曜日の午後(当時土曜日は半ドンでした)、土曜学校を開いて、楽しく過ごしました。記憶が薄れていますが、15~20人程の子ども達が、出席していたと思います。

3年間の勤務の後、転勤で若松を離れ、その後会社の方も転勤されましたので、社宅の中の集会所も使いにくくなった様で、土曜学校は閉鎖となったと聞いております。

転勤を数か所重ねて若松に戻ることが出来ましたが、今度は単身赴任が始まり、若松教会の教会学校のお手伝いが出来ないでいましたが、1年に1~2回、教会学校でお話をする機会が与えられました。

その頃は、生徒(小学生)3~4名で、少し寂しい教会学校でしたが、信徒さんの子どもさん2名が頑張っていて通ってきていました。今は、その子どもさんも成人して、若松教会の教会学校も休止状態です。いつの日か再開できることを願って、教会学校長と会計は残っています。

自分もそうですが、教会学校から受洗に導かれる方が多くおられますので、教会の伝道の証として、教会学校は必要と感じています。

2021年度 教会の歩み

4月 教会定期総会(25日)

5月 九州教区総会(議決権行使書で開催)、創立記念日礼拝・ペンテコステ礼拝(23日)

7月 地区交換講壇(中止)、河野泰重さん洗礼式(4日)

8月 平和聖日(1日)

11月 わかまつ9条の会結成17周年記念・玉井史太郎追悼の集い(3日)、逝去者記念礼拝(7日)

12月 アドヴェント、クリスマス諸行事(19日)

1月 新年礼拝(会場:若松バプテスト教会) 地区信徒研修会(各教会紹介DVD作成)

2月 信教の自由を守る平和集会(未実施)

3月 地区総会(20日)

毎月の集会

- ・ 聖書研究祈祷会 (休会中)
- ・ あも〜るの会 (休会中)
- ・ 生と死を考える会 (休会中)
- ・ 若松キリスト教連合祈祷会(毎月)



2021年11月7日、逝去者記念礼拝

編集後記

筒井隆夫

突然、ウクライナにロシアが侵攻し、何の罪もない人々の日常が、命が、踏みにじられています。強い憤りを感じるとともに、早期の戦闘の終止を祈らずにはおられません。

また、「2021年度の教会の歩み」や「毎月の集会」に掲載しているように、教会の各行事や集会は、コロナ感染の影響により、変更や中止を余儀なくされています。それでも、私たちは、神様に守られ、導かれ、出来ることを実行していきたいと思えます。